

株式会社 全国商店街支援センター

平成 26 年度 商人塾支援事業

事業報告書（概要版）

平成 27 年 2 月

事業委託先：飯塚市商店街連合会

## 目次

1. 事業目的 .....	1
(1) 対象地域の背景と課題 .....	1
(2) 目標（塾生の育成像） .....	2
2. 事業内容 .....	2
(1) カリキュラム .....	2
(2) 視察研修 .....	3
3. まとめ .....	4
(1) 活性化プラン .....	4
(2) コーディネーターの総括（研修のポイント、重点的に指導した点等） .....	5
(3) 実施機関の総括（成果や新たな課題、今後の活動展開等） .....	7
(4) 参加者（塾生）の感想・今後の意気込み等 .....	8
(5) その他（成果物・報告事項等） .....	9

実施機関名：飯塚市商店街連合会（福岡県飯塚市本町 8 - 1 6）

参加商店街：本町・東町・昭和通・吉原町・新飯塚・公設市場各商店街

テーマ：商店街の現状を把握し、将来ビジョン策定に向けた能力を養う



## 1. 事業目的

### (1) 対象地域の背景と課題

#### 地域と商店街の概要

飯塚市は、福岡県のほぼ中央に位置し、JR 筑豊本線・福北ゆたか線が走り、国道 200 号、201 号が市街地で交差する交通の要衝となっている。人口は約 138,000 人（下記図）。2006 年に周辺 4 町と合併し、人口 13 万余の新市となったが、人口は微減状態であり行政は、教育環境や定住促進を図る少子化対策を行っている。また、高齢化率は 25%を超えており、将来的に見ても人口減少状態が続くと考えられている。

そのなかで、地方都市共通の経済減衰などに起因する、中心市街地空洞化に歯止めをかけるべく、平成 24 年 3 月に「中心市街地活性化基本計画」の認証を国から受け、実効を伴うハード整備やソフト事業を展開している。しかしながら、消費動向の変化によるロードサイド出店の激化や、交通網の整備による福岡市博多駅近郊や天神への買物流出は続いている。

#### 飯塚市商店街連合会が抱える課題

現在の来街者は高齢層が約 80%を占め、商店街周辺には図書館や子育て支援

施設等が存在しているにも関わらず、子供や子育て世代の来街は少ない状況である。また、昨年度実施した「未就学児童を保育園に通わせている母親へのヒアリング」調査で、商店街が思っているよりも、地域住民、特に若い世代は商店街を知らないということがわかった。

そこで、商店街が将来生き残っていくためには、現在来街している高齢者を大切にする一方で、子供や子育て世代を中心とする若い世代にもっと来街してもらう必要があると考えた。

## (2) 目標（塾生の育成像）

- ・将来の商店街リーダーとしての素地を養うと共に、商店街ビジョンが策定できる基礎を学ぶ
- ・商店街近隣住民、地域団体との連携ができる素養を学ぶ
- ・資料作成や申請書類作成のノウハウを学ぶ
- ・提案力と説明力を養う
- ・広範なまちづくりについての知見から行動に移せる能力を学ぶ

以上を通じ、事業終了後飯塚市商店街連合会に属する単組の商店街組織を横断する、商業者ネットワークを構築し、商店街活性化事業に対するソリューション創出と、モチベーション喚起を図る。また、商店街に近接する地域資源や人的資源を掘り起こし、連携、活用出来るようにする

## 2. 事業内容

### (1) カリキュラム

(全8回 コーディネーター:久保 森住光氏(商店街活性化プロデューサー))

日時	講義テーマ	講師
7月22日(火) 19:00~21:00	商店街活性化の課題を考える ～活性化策策定にむけて～	(有)協同研究所取締役 東 朋治氏
8月28日(木) 19:30~21:30	地域間連携から見た商店街活性化事例を学ぶ①	中小企業基盤整備機構 長坂 泰之氏
9月2日(火) 19:30~21:30	地域間連携から見た商店街活性化事例を学ぶ②	岩村田商店街理事長 阿部 眞一氏
10月16日(木) 19:30~21:30	近接する地域と連携をとるには	鹿屋市柳谷公民館館長 豊重 哲郎氏
11月19日(水) 8:00~19:30	商店街活性化先進地から学ぶ(視察) 山口県宇部市・山口市中心市街地	

12月11日(木) 19:30~21:30	地域間連携から見た商店街活性化事例を学ぶ③	佐世保四ヶ町商店街 理事長 竹本 慶三氏
1月15日(木) 19:30~21:30	活性化プラン策定①	(有)協同研究所取締役 東 朋治氏
1月29日(木) 19:30~21:30	活性化プラン策定②	(有)協同研究所取締役 東 朋治氏

## (2) 視察研修

視察先：山口県宇部市・山口市

テーマ：商店街活性化先進地事例に学ぶ

講師：宇部市役所産業振興部商工振興課中小企業振興課係長中山靖彦氏

宇部市商工会議所経営指導課浜津光芳氏

宇部市商店街連合会会長熊谷満之氏

山口市中心市街地活性化協議会タウンマネージャー有田實氏

視察の目的：

宇部市（宇部市中央銀座街商店街等）

- ・エヴァンゲリオン作品を使ったシャッター絵画やお化け屋敷、イルミネーションへのNPO組織を通じた市民参画、光栽培による野菜製造プラント実験による空き店舗対策、行政の商業活性化策を学ぶ

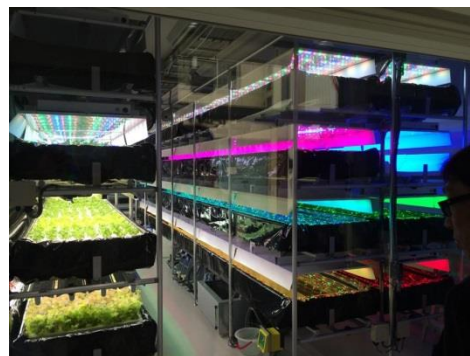
山口市

- ・中心市街地活性化基本計画二期認定の実効策策定のプロセスと、商店街における空き店舗対策を学ぶ

視察の成果：

- ・宇部市中央銀座街商店街視察では、来街者の激減による商店の閉鎖状況を視察した。宇部市担当者から「何故」を聞くことで、商業環境の悪化から商業者がまとまることの大切さを知った
- ・山口市では、外部連携を進めることが活性化の基礎をつくることがわかった
- ・山口市が行った、平成26年度「トータルプラン作成支援事業」を実施した山口市商連と連携して中心市街地活性化基本計画二期認定へのプランの練り込み方などを学ぶ事ができた
- ・創業支援においては、時間をかけてプランを作りあげる手法を学んだ

- ・専門性の高い知見を持ったリーダーの必要性を知った



### 3. まとめ

#### (1) 活性化プラン

##### 1 短期的な課題解決へのプロセス

###### 商店街の持つ強み

- ・高齢者に来街しやすい商店街
- ・伝統と歴史がある商店街
- ・駐車場無料のシステムがある
- ・統一感がある商店街だ
- ・賑わいイベントを多く実施している

###### 商店街の持つ弱み

- ・個店の意識低下による販促活動の不備
- ・広報力の弱さによる子育て世代をはじめとする若い層への訴求の弱さ
- ・マンネリ化と担当者の固定化によるモチベーション低下

上記を踏まえた活性化プラン ⇒ 「弱みは希望」と捉え改善点を探る

- ・飯塚市商店街連合会主催歳末売り出し「永昌会」を改善する
  - 1 現在、売り出し内容は個店任せになっているが、統一ルールを作る
  - 2 若い子育て世代に分かりやすい発信として SNS を利用する
  - 3 参加型イベントを作り込み、参加のハードルを下げる
  - 4 均一価格セールや、永昌会期間中に「百縁市（百円商店街）」をぶつけてみる
  - 5 「永昌会」は一年間の集大成として、各商店街ごとの知恵を出す

- ・日頃からやるべき販促を見直す

- 1 個店努力を助長するような学習会を行う。特に情報発信について
- 2 若い世代に訴求するイベントを恒常的に行う
- 3 若い世代のニーズを常に拾うようにし、来街した若い層から個店店主もヒアリングし、会議で発表する

## 2 長期的な課題解決へのプロセス

外部連携をどのように進めるか ⇒ 今まで取り組まなかった事への反省

- ・近隣住民へ商店街の取り組みを伝える
  - 1 まちづくり協議会への商店街メンバーの参加を通じて広報する
  - 2 催事チラシなどを自治会を通じて配布する
  - 3 地域行事を把握し、積極的に参加する
  
- ・近隣団体との連携を進めるには
  - 1 提携先をしっかりと把握する
    - 例 九州工業大学 近畿大学 近畿大学九州短期大学
    - 麻生看護大学校 九州歯科技工士専門学校 高校
    - 中学校 小学校 などの学校
    - NPO などの市民活動団体 ⇒ 市営「市民交流プラザ」を活用
  - 2 商店街を各団体の「活動の場」として提供、広報する
  - 3 ターゲットを明確にし、子どもイベントで若い層や女性へ訴求する
  - 4 佐世保・竹本氏が言った「はじめから大きくする必要はない。まず、やってみることだ」を実践する
  - 5 企画が持ち込まれたなら、「出来る」方向で検討する



## (2) コーディネーターの総括（本研修のポイント、重点的に指導した点等）

・本研修は全8回で実施した。1回目に(株)全国商店街支援センター桑島俊彦社長から記念講演として、全国の活性化事例から見た飯塚の可能性を話して頂いた。また、第1回、第7回、第8回に(有)協同研究所取締役東朋治氏を招き、全体総論からワークショップによる全体総括、まとめを行った。第2回から第6回に先進事例を持つ講師からの講話や、先進地事例からの学びをもとに活性化プランを作成するという内容だった。

・講義は、事前の講師とのメール、電話での連絡打ち合わせの中で、講義内容の精査、時間などを詳細に決めた。その結果、講義内容は飯塚持つ課題に沿うものになるよう講師が工夫をなされていた。濃い内容であったが、2時間という制約の中で、DVDやパワーポイントを駆使し解説がなされ大変に分かりやすいと塾生が感想を持った。質疑応答時間も取り、要約やさらなる解説を加えられた講師も多く、実り多い講演となった。

具体的には

- 1 東 朋治氏：商店街活性化とは何かを、持続可能で住民から求められるためにどのような考えを持つべきか、その方策
- 2 長坂泰之氏：全国で成果が出ている事例を解説する中で、地域との連携を中心とした活性化の取り組みを教示
- 3 阿部眞一氏：岩村田が取り組んだ事例から、地域と共に生きる商店街の本質を飯塚に置き換えて解説
- 4 豊重哲郎氏：地域とは何か、地域住民とはどうあるべきなのかを、行政にたよらないまちづくりを中心に、地域住民も交えた講演会で問いかけた
- 5 竹本慶三氏：小さなやる気の一步が大切と、「よさこい」へ多くの市民、市外からのゲストを巻き込む元気あるまちづくりを事例を上げながら解説
- 6.7 東 朋治氏：講演で学んだ内容を盛り込み、ワークショップにて、歳末売り出し「永昌会」の見直しを中心に、飯塚で取り組むべき活性化策をまとめる

・活性化策は当初、全体の取り組みを話し合う道筋であったが、三好塾頭との意見交換から、12月1日から5日に実施された第121回永昌会での売上げ、集客ともに前年より悪化した状況を踏まえ、①永昌会の見直し案づくり②若い層への訴求③地域連携を行うためには、を考えながら行うこととなった

・第7回(東朋治氏)のワークショップ冒頭に講演、視察内容の振り返りを行



い、また「永昌会」見直しを念頭においた活性化プラン策定を実施したい旨の提案を行い、塾生からの賛同を得た。

その際、参加した塾生が積極的に意見が出せて議論へ参加出来るように、ポストイットと模造紙を使用し、また、講師がスライドを見せながら意見が出やすい環境をつくり進めた

・意見や出された情報を共有して、発表まとめに入りやすいように講師と進行について密に話し合いながら進めていった

上記のような過程を経て、当事業で目指していた塾生の育成像を念頭に置きながら実施した結果、塾生に次のような点について効果があった。

- 1 商店街の強み、弱みの抽出と認識
- 2 個店、商店街の現状把握
- 3 短期的課題、長期的課題の把握
- 4 具体的な行動を起こす活性化策の積み上げ
- 5 各単組商店街で本研修の内容を説明、アクションを起こす
- 6 塾生が主体的に動く

今後も、塾生の活動をネットワークとして拡大していく。

### (3) 実施機関の総括（成果や新たな課題、今後の活動方針等）

目標に対する成果

本事業は、平成24年、25年に実施した「商店街の創業促進事業」の間に気づいた商店街の抱える課題をどのように解決していくのかを考える機会となった。時間が空くことなく、引き続きの年度で取り組めたことは大きかった。特に塾頭を申し出てくれた、みよしスポーツ・三好宏輔氏のリーダーシップによる、塾生の商店街課題解決に向けた取り組みと見え、商店街にとって有意義な事業となった。

全国から、本事業のために参集してくれた講師との忌憚のない意見交換も有意だった。講師の大半が飯塚市商店街連合会の活動を熟知しており、飯塚市における課題に沿った話しをしてくれたため、塾生にとって身近な事例として捉えやすかった。

ワークショップでは、闊達な意見が出された。2つのグループに分けて展開

したが、問題意識が共有され商店街は違えども、抱える課題の共通性に驚きの声もあがっていた。当然のことだが、2つのグループ発表も同様であった。各塾生が加盟する単組の商店街単体で取り組むより、飯塚市商店街連合会全体で取り組むほうがより大きな成果効果を挙げやすいという気づきに繋がった。こうした気づきが、行動へと移る下地づくりに本研修の内容は大いに役立った。塾生自らが商業活性化のリーダーであり、実践すべき人財であるとの自覚も芽生えた。

#### 新たな課題

学びで得た、商業活性の主体としての塾生との自覚であるが、日々の店頭営業との兼ね合いを鑑みると性急に事は運ばない。そこで、活性化プランを進める上で、行政、商工会議所、地域団体、まちづくり会社等との意見調整を行い、実行する人財の確保が欠かせないとの認識が高まって行った。

事務機能を有しない商店街組織もあり、塾生それぞれがまちづくりの新たなリーダーとしての育ちと人財確保のネットワーク構築が急がれる

#### 今後の活動

まずは、各単組での本事業で得た学びや成果を発表し、理解拡大と活動を行う必要がある。今までも研修で得た内容が、「いい話だった」で終わった例は多い。知り⇒気づき⇒行動へサイクルを持って行くことが重要だ。今後も、塾生の活動をネットワークとして拡大していく

#### (4) 参加者（塾生）の感想・今後の意気込み等

##### (塾頭) スポーツ小売 (30代男性)

今回の研修で多くの学びを得た。特に、それぞれの商店街が抱える問題に大きな共通点がある事を知った。単組の商店街同士は、飯塚市商店街連合会では繋がっている様に見えるが、活動はそれぞれだ。活性化補助金を使用した取り組みもバラバラだった。しかし、全体で取り組みを推進した方がより効果的だ。連合会理事会や、販促委員会などを通じて全体で取り組む事の有効性を訴える。

##### (塾生) 学生服販売 (50代男性)

まだまだ、商店街内には「何をやってもムダ」が根強い。それが、住民から支持されにくくなった原因のひとつだ。地域とつながり、共に歩む体制を作り「永昌会」を地域ニーズに合致させる取り組みをスタートさせ、商店街を利用しやすい場に変えていく。

(塾生) 楽器店 (50代女性)

実のためにになった。ただ、良い研修だったでは終わらせたくない。商店街内の女性を繋げ、行動する必要性を大いに感じている。男社会ではけっしてないが、女将さんや若い商業者が意見を出しやすい場を作りたいと思った。努力する。

#### (5) その他 (成果物・報告事項等)



飯塚市商店街連合会「どうで商プロジェクト委員会」(月1回開催)

委員会への、地域まちづくり協議会、飯塚青年会議所、近畿大学九州短期大学、地域団体(地区豊【筑豊地区中小企業団体】・NPO わいわいキッズいづか)へ、新年度からの参加要請を行い、それぞれから快諾を得る。初回4月28日(火曜日)と決まる

平成 26 年度 商人塾支援事業

委託元：株式会社全国商店街支援センター

〒104-0043

住所：東京都中央区湊 1-6-11 八丁堀エスワンビル 4 階

TEL：03-6228-3061

委託先：飯塚市商店街連合会

〒820-0042

住所：福岡県飯塚市本町 8-16

TEL：0948-29-2110